

## 【国語科】

### 1 今年度の研究について

#### (1) 教科で取り組んだ授業改善

##### ア 「主体的・対話的で深い学び」に向けての取組

単元「言葉を見つめる」において、辞書を作る取組を行った。改めて自分が使っている言葉の意味を見つめ直ただけでなく、考えた語釈をクラスメイトと確認し合い、妥当性の高いものを目指した。

##### イ ICTを活用した授業の取組

現代文B『こころ』の授業で、「私」が歩いた「いびつな円」の風景や地理的条件について画像等を用いて紹介した後、「いびつな円」の解釈を行うグループ活動を行った。

##### ウ 今年度の取組の成果と課題

生徒がお互いに意見を出し合ったり、批判精神をもって意見を述べたりしたことで、意見の広がりが見られた。しかし、課題設定を自由にできても何も思い浮かんでこない生徒がおり、勉強以前に普段から自分の身の回りに興味をもつことが必要だと思った。

#### (2) 観点別評価の検討について

今年度は観点別に評価方法を分け、得点化して評価した。例えば、「知識・技能」の観点は考査等で問い、「思考・判断・表現」の観点は考査だけでなく授業中のパフォーマンスやレポート等でも評価した。課題は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を客観的に行うためにはどのような評価方法が適切なのかということである。今年度は提出物等で評価したが、生徒の学習調整のための評価になっているか検討が必要である。

### 2 来年度の研究に向けて

#### (1) 教科として取り組む授業改善について

##### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「主体的・対話的で深い学び」というと、ペアワークやグループワーク、ジグソー法など、手法に主眼を置きがちではあるが、本来求められている学びの実現を重視すべきである。自らが能動的に考え、一人では導き出せないような内容について、学習者同士や指導者の助言を重ねながら学びを深めていくことに重点を置きながら、指導者としての発問や指導形式の検討を進めていきたい。

##### イ ICTを有効に活用した授業の実現に向けて

ICTを活用した授業を考えるより、学習者の学びが深まるための手段としてICTという手段が効果的な場合は積極的に活用していくという意識をもって授業研究を行っていきたい。講座全体での意見共有だけでなく、板書時間の短縮など、円滑な授業を行う手段としてのICTの活用を模索していく。

(2) 観点別評価の具体的方法、その後の指導への活用について

レポートや小論文などの課題解決型の課題を課すときに、配布するプリント等に評価規準を明記する。